

下鼻甲介ラジオ波凝固治療（セロン、コブレーター等）について

ラジオ波凝固治療はレーザーよりも比較的低温で粘膜下の組織を凝固変性させることによって下鼻甲介を収縮し、鼻閉症状を改善させる治療法です。

薬物治療では十分な改善が得られない、レーザー治療でもすぐに再発してしまう、特に鼻閉症状が強いアレルギー性鼻炎や肥厚性鼻炎の治療としてラジオ波凝固治療が有効です。



下鼻甲介粘膜ラジオ波凝固の実際の手順と留意点について

1. 術前血液検査

前もって肝炎や梅毒などの感染症、出血傾向、肝機能などに異常が無いことを確認します。

2. 局所麻酔

まず治療側の鼻腔内に麻酔液を浸した綿を入れて粘膜表面を麻酔します。その後下鼻甲介粘膜に数mlの局所麻酔薬を注射し、10分待ってからラジオ波治療を行います。

3. ラジオ波凝固治療

治療に際して麻酔が完全であれば痛みはありません。下鼻甲介粘膜の数カ所に細い針状電極を刺入して通電し粘膜下組織を低温熱凝固します。治療時間は5分くらいです。術後は30分程度院内で休んで出血がないことを確認してから帰宅して頂きます。

ラジオ波凝固は3~6週かかって効果が出てくる治療法です。一侧を治療後1ヶ月以上の十分な間隔をおいて、治療した側の下鼻甲介の縮小効果を判定してから反対側を治療します。

4. 術後の注意と経過

電極針を刺した部分から術後少量の鼻血が出ます。炎症を抑えるために抗生物質や消炎鎮痛剤などを数日内服します。お風呂、食べ物などの制限はありませんが、治療当日はシャワー程度にしてください。過激な運動や飲酒・喫煙は避け、水泳は最低1ヶ月間控えて下さい。

治療後1~2週間は痂皮（かひ=カサブタ）が付着して鼻づまりが酷くなります。治療効果が強い場合には術後に下鼻甲介粘膜の一部が剥がれて下鼻甲介骨が露出することがあります。その場合には2, 3ヶ月にわたって痂皮が付着し、鼻血が出やすくなりますので注意が必要です。出血や鼻閉など不具合があれば通院して処置治療をして下さい。

ラジオ波凝固治療の効果には個人差があります。効果が不十分であったり、いったん良くなった鼻閉が再発するような場合には、ある程度の期間をおいてから再手術を考慮して頂きます。